

教務だより

2016年7月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

「Win-Win」をつくるために！

茗溪塾塾長 宇野雅春

20年以上も昔のことですが、新しい教室に初めて赴任した時のことです。

直面したのが、明らかな「いじめ」の状況でした。授業中なのにトラブルが起こります。その中心になるのが、いつも同じ男の子でした。言葉の攻撃が後を絶たず、新任早々の私は、事情のわからないまま「いじめをやめろ！」とある日の授業で言ってしまいました。「言ってしまった」と書いたのは、本当に言ってはいけなかった言葉だったからです。思い知らされることになったのは、そこから起こった私への「いじめ」です。「いじめ」と気がつくまでは相当な時間がかかりました。自分の力量の問題と捉えていたので辛い思いをしながらも悩みました。例えば、生徒が授業中大声でおしゃべりをします。注意すると別な生徒が「早く授業を進めてください」といいます。その間にもその男の子をめぐるトラブルは、続きます。授業がなかなか進みません。クラス全体が、その子のありとあらゆる行動を非難します。あげく帰り道で女の子にからかわれて、ついに暴力に出てしまった男の子の行動を「許せない！」と大騒ぎになりました。ここに至っては、その男の子が異常ということでお達まで心配する有様…。いじめている方は、さらに勢いづきます。

いじめてやろう！と思っている生徒はほとんどいなくて、むかついている生徒+おもしろがっているだけの生徒がいじめの張本人となります。いじめられる側は強いストレスから怒りの爆発が起こります。先生方も、「〇〇君も手を自分から出すから…」とその子にも問題があると思っています。その男の子の母親と面談したとき、「自分の子供がいじめにあったら、先生はどうするんですか？」と泣いて訴えられました。父親が数年前になくなってから、男の子に微妙な変化があり、そこらにいじめが勃発、学校でも塾でも同じようなことが起こっていたようです。私が悩んだのは簡単に解決が出来なかったからです。叱ると「自分たちだけが怒られる！」とさらにいじめは巧妙になります。学校の先生が障害のある子供をかばったりすると、必ず先生へのいじめが起こります。親も巻き込まれるケースが少なくありません。子供は自分のしたことは自覚しておらず、先生が言ったことや行動したことを逐一親に報告するので親も完全に信じ込みます。「異常な先生像」がそこに出来ます。先生達さえも相当追い込まれます。その子は、そんな状況の中で、受験では第一志望に見事合格しました。最後の方で成績がぐーんと伸びたのを記憶しています。

「いじめ」は自立出来ていない事から起こります。自立していない人間は「言ったこと」「やったこと」にだけに、すぐ反応します。むかつくのです。「悪口を言われた」事に腹を立て「なぜ言われた」のかは考えません。反応的な段階から抜け出せないために常に人とのトラブルの中にいます。

こういう時は①「一時停止ボタン」を押すこと。②今何のために勉強しているのかを自覚すること。(目的を明確化)③「優先順位」を決めて計画を立てて受験勉強をこなしていくこと。この3つが、いじめに取り込まれないための原則です。「WIN-WIN」という受験を成功させる重要なカギになる人間関係を築く元になります。夏を通して「WIN-WIN」の関係を目指します。その前にもう一度自分を見直してみましょう

理想的に事は進まないのですが、効率だけ考えてトラブルだけ避けるというのも良いことには思えません。「いじめ」は絶対にしてはいけない事ですが、必ず起こる事でもあります。努力と経験が人を成長させることを信じています。